

論

和歌山 この一年

追い風の勢い、次世代へ

この一年、和歌山県が脚光を浴び続けた。

わかやま国体の開催、「みなべ・田辺の梅システム」の世界農業遺産認定、紀勢自動車南紀田辺インターチェンジ(IC)―すさみ

南IC間の開通。高野山は開創1200年の催しで年間を通じてにぎわい、みなべ町から串本町にかけての海域は吉野熊野国立公園に編入されて、旅行先としても人気

が沸騰した。

44年ぶりの県内開催となった「紀の国わかやま国体」で、和歌山県は男女総合(天皇杯)優勝。女子総合(皇后杯)は2位。紀南勢も大いに活躍した。田辺市出身の阪本直也選手―県教育センター

学びの丘―は、カヌー成年男子力ナディアンシングルの2種目で優

勝。成年男女でそろって優勝した体操では、田辺工業高出身の選手らが勝利に貢献した。

国体とその後の全国障害者スポーツ大会「紀の国わかやま大会」を合わせた延べ参加者総数は約75万8千人。スタッフやボランティアの下文えもあり、経済への波及効果は、県内で810億4100万円と推計された。

国体を前に、田辺市内にはスポーツパークや弓道場などの競技場が完成。今後のスポーツ振興、スポーツ合宿に期待が高まる。

交通網の整備も進んだ。紀勢自動車道の南紀田辺IC―すさみ南

ICが完成したほか、それに関連して白浜町にはフラワーラインの大半が開通。那智勝浦新宮道路は那智勝浦から市屋まで延伸され、北山村の人たちの待望久しかった奥瀬道路も開通した。

田辺市とみなべ町の梅産業にも光が当たった。この地で400年以上受け継がれている「みなべ・田辺の梅システム」が、国連食糧農業機関(FAO)から世界農業遺産に認定され、梅や備長炭の生産に従事している人たちの追い風になった。

旅行先としても人気が高まった。「楽天トラベル」(東京都)

の「2015年の国内旅行先伸び率ランキング」では、和歌山県が2年連続の全国2位。白浜の双子パンダは多くのメディアで取り上げられ、日本とトルコの合作映画「海難1890」の舞台になった

串本町も人気になっている。

こうした勢いを来年以降にどうつなげるか。まず「紀伊山地の霊場と参詣道」の追加登録に期待がかかる。各地の参詣道に加え、熊野への入り口として「關難神社」

(田辺市東陽)が追加登録されれば、市街地が活気づく。南紀熊野ジオパークが「世界ジオパーク」に認定されれば、地域全体への追い風になるだろう。認定に向けての活動を応援したい。

このように多くの果実が実ったのも、先人が種をまき、育て、守ってきたからである。熊野古道も梅やミカンが代表する産業も、すべては先人が築いてきた。

その宝を磨き、次世代へつなぐのが私たちの使命である。それを果たすことが地域の課題克服につながる。新しい年はここから出発しよう。

(N)